

# 34 組御遠忌通信

今、いのちがあなたを生きている

第7号

2010年10月27日発行

— 宗祖としての親鸞聖人に会う —



親鸞聖人七百回御遠忌法要を顧みて



明泉寺前住職  
水谷 光子

七百回御遠忌の頃は、先の住職であった私の夫も若く健康で、あの時の団参にはお役を引き受け何度も本山や教務所に出かけ、連絡・準備に忙しかった。五十年近く前の事、私の記憶も今は朧となったが、明泉寺からは三十六人の参加だったと思う。しかし、現に生き残っている者は、当時三代半ばだった私と他に二人のみとなった。住職は全体のお世話に専念したいから、明泉寺の檀家のお世話は私に委せると言われた。当時幼稚園で働いていた私は、幼児の引率には慣れていなかったが、高齢者の引率は初体験で、緊張し通じた。団体行動の苦手な方が多いので、解散と集合に、何



よりも苦勞した。携帯電話の普及している現代では全く考えられないことである。宿は五条近くの安宿だったが、それでも予約に苦勞したと聞いている。本堂では、立派なお莊嚴・初めてのお勤めに皆様大感激だった。唯一旦席に着いたら全く動けない程、超満員だったので、トイレの近い高齢者に付き添う事は、大変な事だった。さて法要の中で、記憶に残っているのは、法話を聞きながら、時折深く頷いて「なんまんだぶ、なんまんだぶ」と如何にも有難そうに呟く高齢の夫人に出遇った事だった。私の席のすぐ近くに座られ、娘さんかお嫁さんらしき方に付き添われていた北陸訛りの穏やかな方だった。その方の念仏の声は、聞こえよがしに大きくでもなく、恥じ入るようにな小さくでもなく、唯自然

の俣に呟くような、穏やかな念仏だった。このお念仏に出遇ったことが、私には今も忘れられない何よりの思い出である。「念仏とは、称えようと申して称えるうちは、まだ本物ではない。本物は口を衝いて出てくるものだ」と、妙好人を例に、予ねて姑から聞かされていた事が思い出された。「今すぐに出てこなくていいんだよ。その内に必ず、出てくるようになるんだから」と、姑は言葉を重ねて、若かった私の氣を楽にさせてくださるのであったが…。

なるまでの三年間程だった。戦災孤児となり、間もなく坊守の座についたが、聞法どころではなく、暫くは生活のためだけに生きてきた。やがて世の中が落ち着いてから、毎月の坊守会や、本山・教務所などの研修会にも参加させて戴いたが、最初は「坊守としての最低常識位は…」という意識でしかなかった。「お話を聞いていれば、わかつてもわからなくてよい。教えは次第に毛穴から浸み込むものだから」などと聞かされると、反発を覚えた事さえあった。

四十三歳の時、幼稚園を停め、五十歳の時、本堂・庫裡を建立して戴き、五十五歳の時、娘が大谷大学を卒業した。その頃になって、私は漸く時間に余裕ができ、また娘の刺激を受けて、経典にも興味を覚え、聴聞にも真剣になったと思う。「如

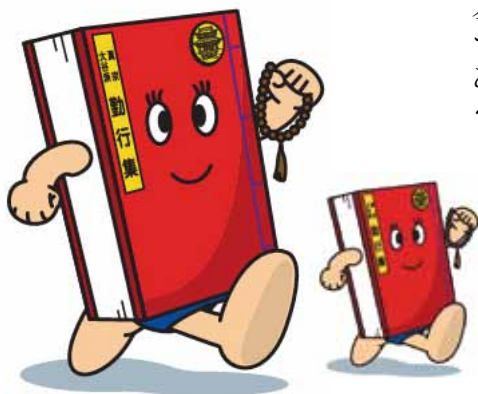


来の声（こゑ）が聞こえるなら念仏（ねんぶつ）だけで充分（じゅうぶん）。納得（なつとく）できなければ、徹底的（てつていでき）に教行信証（きょうぎょうしんじょう）を「読め」と若い頃（ころ）から聞（き）かされて育（そだ）った。また「一文（いちもん）不（ふ）知（ち）の者（もの）こそ救（すく）われ易（やす）い」とも聞（き）かされていた。

本堂（ほんどう）建立（こうり）後（ご）間（ま）もなく、私（わたし）の夫（おとこ）は糖尿（とうりゅう）性（せい）腎症（じんじょう）により、永（なが）らく透析（とうせき）生活（せいかつ）をしていしたが、平成（へいせい）四年（ねん）七（しち）月（げつ）初（はつ）旬（じゆん）には、さら（さら）に多臓器（たぞうき）不全（ふぜん）も加（か）わり、最（も）早（はや）時（じ）間（かん）の問（もん）題（だい）と言（い）われていた。やがて視力（しりよく）も急（きゆう）に衰（おとろ）え、昼夜（ちゆうや）の区別（くべつ）も付（つ）かなくな（な）った。それ（それ）まで、毎（まい）朝（あさ）ベツド（べつど）から半（はん）身（しん）起（お）こし、お勤（つと）めを（を）して（して）いたが、それ（それ）も叶（かな）わなくな（な）って、目（め）覚（さ）めた時（とき）を朝（あさ）だと思（おも）うらし（らし）く、その度（たび）に一日（いちにち）に何（なん）回（かい）も正信偈（しょうしんげ）を（を）読（よ）むよう（よう）にな（な）って（て）いた。旅立（たびだ）つ五（ご）日（にち）前（まへ）には、「また天親（てんしん）めぐり（を）を（を）しちや（ち）つたよ」と言（い）うよう（よう）にな（な）った。正信偈（しょうしんげ）には「天親菩薩造論（てんしんぼさぞうろん）説（せつ）」と「天親菩薩論註解（てんしんぼさろんちゆげ）」

の二行（にぎょう）がある。昨日（けふ）まで諳（そら）んじていた正信偈（しょうしんげ）を（を）忘（わす）れる筈（はず）はないのに、そこ（そこ）で堂々（どうどう）回（まわ）り（を）して（を）しま（ま）うとい（い）う嘆（なげ）きの訴（うた）えで、か（か）な（な）り（の）シヨツク（しよく）だ（だ）つ（つ）たら（ら）し（し）く、唯（ただ）々（ただ）痛（いた）い（い）た（た）し（し）か（か）つ（つ）た。既（すで）に何（なに）が（が）起（お）き（き）て（て）思（おも）い（い）知（し）ら（ら）さ（さ）れた。脳（のう）血（けつ）管（かん）障（しょう）害（がい）が（が）進（すす）み（み）、神（しん）経（けい）が（が）侵（おか）さ（さ）れ（れ）た（た）事（こと）は、真（まこと）に（に）不（ふ）可（か）抗（かう）力（りき）な（な）生（せい）理（り）現（げん）象（しょう）で、手（て）の（の）借（か）せ（せ）よう（よう）が（が）ない。お念（ねん）仏（ぶつ）が（が）総（すべ）て（て）だ（だ）か（か）ら（ら）、それ（それ）で（で）い（い）い（い）じ（じ）や（や）な（な）い（い）か（か）し（し）ら（ら）」と（と）言（い）う（う）し（し）か（か）な（な）か（か）つ（つ）た。その（その）後（ご）旅（たび）立（た）つ（つ）ま（ま）で（で）の（の）日（ひ）々（び）は、う（う）とう（とう）と（と）睡（すい）微（び）む（む）事（こと）が（が）多（おほ）く、時（とき）折（おり）目（め）覚（さ）めて（て）は「なん（なん）ま（ま）ん（まん）だ（だ）ぶ（ぶ）・なん（なん）ま（ま）ん（まん）だ（だ）ぶ（ぶ）」と（と）、眩（くら）く（く）よう（よう）に（に）称（な）え（え）て（て）いた。ま（ま）さに（に）マ（マ）グ（グ）マ（マ）が（が）嘔（ふ）き（き）出（で）る（る）よう（よう）に（に）。そ（そ）して（して）八（はち）月（げつ）一（いち）日（にち）の（の）夕（ゆふ）方（がた）から昏睡（こんすい）状（じょう）態（たい）に（に）陥（おち）り、翌（あした）早（そう）朝（ちよう）安（やす）ら（ら）か（か）に（に）浄（じよう）土（ど）に（に）還（かえ）つ（つ）た（た）ので（ので）あ（あ）つ（つ）た。私（わたし）も（も）既（すで）に（に）八（はち）十（じゅう）歳（さい）を（を）超（こ）え（え）、心（こゝろ）身（み）と（と）も（も）衰（おとろ）え（え）た（た）が（が）、幸（さい）い（い）に（に）

充（じゆう）分（ぶん）な（な）時（じ）間（かん）に（に）恵（めぐ）ま（ま）れ（れ）、お（お）蔭（かげ）で（で）眼（めが）鏡（ね）に（に）ルー（る）ー（る）ペ（ぺ）を（を）重（かさ）ね（ね）、時（じ）間（かん）を（を）か（か）けて（て）、読（どく）書（しょ）を（を）楽（たの）し（し）ん（ん）で（で）い（い）る（る）。今（いま）は（は）、丹（に）羽（わ）文（ぶん）雄（ゆう）の（の）全（ぜん）集（しゆう）に（に）ア（ア）タ（タ）ツ（ツ）ク（ク）し（し）て（て）い（い）る（る）。ご（ご）承（しょう）知（ち）の（の）よう（よう）に（に）彼（かれ）は（は）、真（しん）宗（しゆう）高（たか）田（た）派（は）の（の）末（まつ）寺（じ）に（に）生（う）ま（ま）れ（れ）、愛（あい）欲（よく）地（ぢ）獄（ごく）の（の）中（なか）に（に）育（そだ）ち（ち）、家（か）族（ぞく）や（や）檀（だん）信（しん）徒（と）の（の）期（き）待（たい）に（に）背（そむ）き（き）、当（とう）然（ぜん）住（じゆう）職（しやく）に（に）な（な）る（る）べ（べ）き（き）立（たち）場（ば）を（を）捨（す）て（て）、寺（てら）か（か）ら（ら）逃（に）げ（げ）て（て）作（さつ）家（か）と（と）して（して）生（い）きた（た）方（かた）で（で）あ（あ）る（る）。波（は）乱（らん）万（まん）丈（じよう）の（の）人（ひと）生（せい）の（の）中（なか）で（で）、悪（あく）人（にん）正（しやう）機（ぎ）」に（に）領（う）さ（さ）ず（ず）、逃（に）げ（げ）て（て）も（も）逃（に）げ（げ）て（て）も（も）追（お）い（い）か（か）けて（て）く（く）る（る）大（だい）悲（ひ）に（に）、次（つぎ）第（だい）に（に）身（み）を（を）委（ゆだ）ね（ね）て（て）い（い）き（き）、最（さい）晩（ばん）年（ねん）に（に）は（は）「親（しん）鸞（らん）」四（よん）卷（くわん）「蓮（れん）如（にょ）」二（に）卷（くわん）の（の）大（だい）作（さく）を（を）書（か）き（き）上（あ）げ（げ）て（て）い（い）る（る）。私（わたし）は（は）文（ぶん）雄（ゆう）の（の）心（こゝろ）の（の）軌（き）跡（せき）に（に）、深（ふか）く（く）心（こゝろ）を（を）動（うご）か（か）さ（さ）れて（て）い（い）る（る）昨（けつ）今（こん）で（で）あ（あ）る（る）。



阿弥陀堂



御影堂南東部模型

## 34組からのお知らせ

「34組」とは静岡から藤枝・島田に在る真宗大谷派（東本願寺）寺院の集まりです。34組では、  
 同朋教室や推進員養成講座など一寺院の枠組みを超えた共同教化に主眼を置き、当該地域の  
 ご門徒を中心対象に様々な教化活動に取り組んでいます。34組の具体的な活動については、当  
 通信または各ご寺院にてお知らせしています。皆様のご理解と、ご参加をお願い申し上げます。

公開講座（入会金不要）

# 「歎異抄」を読む

親鸞の言葉に聞く



最も読まれ続けている仏教書の一つ「歎異抄」を通して親鸞の言葉にふれ、現代に生きる私たちの問題を明らかにしていきます。親鸞について、また「歎異抄」がなぜ書かれたのかも解説します。

講師 一楽 真

（大谷大学教授）

- ◆受講日 12月6日（月） 15:00～16:30
- ◆受講料 1,500円
- ◆持ち物 歎異抄（岩波文庫）当日会場にて販売いたします

（いちらくまこと）1957年、石川県生まれ。大谷大学文学部真宗学科卒業、大谷大学大学院博士後期課程満期退学（真宗学専攻）。現在、大谷大学教授。著書に、『親鸞聖人に学ぶ』『この世を生きる念仏』（東本願寺）、『大無量寿経講義一尊者阿難、座より起ち一』『四十八願概説―法蔵菩薩の願いに聞く―』（文栄堂）など。論文に、「顕真実教の明証」「如来二種の回向」「蓮如における王法」など。

\*今後の予定

2011年3月24日（木）

お問い合わせ・お申込は

SBS 学苑 パルシェ校

〒420-0851 静岡市葵区黒金町4-9 パルシェ7F  
 Tel. 054(253)1221 Fax054(255)8683  
<http://www.sbsgakuen.com/>

## 34組寺院

静岡別院	静岡市葵区屋形町 10	054-253-1737
敬信寺	島田市旗指 3050-1	0547-37-2502
蓮生寺	藤枝市本町 1-3-31	054-641-2156
常光寺	静岡市葵区常磐町 2-4-3	054-252-8930
西敬寺	静岡市駿河区大谷 5105	054-237-5466
福泉寺	静岡市葵区大工町 4-1	054-252-3732
明泉寺	静岡市葵区上石町 3-1	054-253-1734
願勝寺	静岡市葵区車町 50	054-253-3665
真勝寺	静岡市葵区長沼 2-18-23	054-261-3328
明通寺	静岡市清水区入江 3-6-30	054-367-0195
専念寺	静岡市清水区上 1-10-14	054-352-6445
専長寺		